

國學院大學久我山中学高等学校 女声合唱部

女声合唱部の前身「中学音楽部」は、同中学校に女子部創設の翌年平成4年度に設立、中高合同の活動を経て平成16年度「中学音楽部」として独立。昨年度、その音楽的な質と生活全般の指導が中学校3年間にとどまることを惜しむ学校側の意向で、創立70周年を期に高校女子が入部できる「中学高等学校女声合唱部」へと発展した。

指揮者宮崎直子は、当校芸術科非常勤講師として平成6年度より勤務。平成6年度より9年度迄は、中学及び高校音楽部に主にピアニストとしても携わり、独立した「中学音楽部」から現在まで全面的に指導にあたっている。

レパートリーは、宗教曲、邦人作品、ポップスと実に幅広い。「中学音楽部」時代には、全日本合唱コンクール全国大会(H19,20,23:各金賞)、NHK全国学校音楽コンクール関東甲信越ブロック(H18,20:銅賞)、東京ヴォーカルアンサンブルコンテスト(6年連続中学部門1位金)、春のコーラスコンテスト(中学部門1位&東京都教育委員会賞=中学部門最優秀)、第5回マイクロシュ・コチャール合唱コンクール(全カテゴリー:グランプリ)。全日本合唱コンクール全国大会高校Aの部(32人以下の部)には、昨年度東京代表として初出場、全部員17人かつ中学生が演奏者の過半分という構成と他団体に勝るとも劣らない音楽性と表現力が朝日新聞全国版をはじめとして各紙面で高く評価をうけた。本年度も過半数が中学生という構成の13人で演奏、精緻で表現豊かな音楽を披露した。

近年は、バンキエリシンガーズやプロムジカ女声合唱団(共にハンガリー)来日のたびの歓迎演奏、一昨年度のテルツ少年合唱団(ドイツ)、昨年度のソフィア少年合唱団(ブルガリア)など、海外の合唱団との共演も多い。また、本校創立70周年記念演奏会(H26)では東儀秀樹氏と共演、他に、警視庁主催をはじめ各方面のチャリティー、国内の合唱団とのジョイントコンサートにも出演依頼をうけた。毎年度末には、一年間の活動のまとめとして《Our Thanks Concert》を催し、いずれも大変好評を博している。

「中学音楽部」時代より、ハーモニーの美しさと繊細さ、丁寧な音楽作りには国の内外を問わず定評があり、世界的合唱指導者のデーネシュ・サボー氏は「日本では殆ど耳にしない清潔な音楽」と絶賛、また、コチャール氏をはじめとする国内外の作曲家諸氏より「作曲家の意向を忠実に音楽にする合唱団」と絶賛されている。近年、合唱界において多方面から注目を集め、数多くの演奏依頼や業界紙の取材等を受ける。また、その紡ぎ出す音楽に対するファンも多く、全国大会の演奏を耳にした指導者などが全国各地から練習見学やコンサートに訪れる。

当部の方向性は中学音楽部時代から変わらず、より良いものを何事においても求め続ける心を持つことに重きを置いている。音楽を通して、より鋭い感性を磨き、心の力と生きる力、また、将来に生かせる基礎力をしっかり身に付けることを志す。あくまでも技術偏重ではなく、美しい音と共に魂を揺さぶる演奏が出来ることを目標に、常に楽しく明るい雰囲気の中、学業との両立をはかりながら、週4日の活動を行っている。

なお、ピアニストは中学音楽部の独立当初の3年間指導者と共に心血を注いで現在の礎を作り上げてきた遠藤径子(みちこ)にかわり、平成19年度より栗原正和がとめている。音楽面、精神面など、多岐にわたるきめ細やかな指導によって、欠かすことのできない存在として部を支えている。

《宮崎 直子》

国立音楽大学音楽学部声楽科卒。声楽を藤井典明、伊藤京子の各氏に、合唱指導を佐藤公孝氏、ピアノを竹島悠紀子、青木紀久子の両氏に師事。大学在学中より合唱及び声楽のピアニストや合唱指導を始める。指揮者のクリストファー・ホグウッド、若杉弘、演出家ミヒヤエル・ハンベ等と国立音楽大学が演奏した際の練習ピアニストや、NHK全国学校音楽コンクール全国大会金賞を数年連続して受賞した暁星小学校聖歌隊のピアニストも勤める。また、全日本合唱コンクール全国大会金賞校である埼玉栄高校では、数年にわたりヴォイストレーナー及び合唱指導に携わった経験も持つ。

当校には、平成6年度より芸術科非常勤講師として勤務。同校音楽部コーチとしては平成6年度より9年度迄の4年間、中学、高校両部に主にピアニストとして携わっていたがいったん離れ、授業のみを担当。平成16年度、学校の方針により中学音楽部の活動が高校音楽部から独立して以来、H26中高女声合唱部へと発展した今も引き続き全面的な指導に就いている。本校外に於いては、合唱指導者、ヴォイストレーナー、合唱及び声楽ピアニスト等として、幅広く活動を行っている。

《栗原 正和》

東京都世田谷区出身。玉川大学工学部電子工学科卒業。(株)富士通ゼネラル勤務後、ピアノ調律師を経てピアニストに転身。ピアノを雁部一浩氏に師事。第2回日本クラシック音楽コンクール特別賞及び安藤賞、第3回P. I. A. Japanピアノコンクール広岡淑生賞等を受賞。世界の名器による音の饗宴(名古屋/ザ・コンサートホール)に全国オーディションにより選出され出演。山梨県芸術祭に出演。ピアノを雁部一浩氏に師事。

デビューリサイタルによるCD「ロマンティックピアノに魅せられて」や2ndアルバム「Melody 栗原正和ピアノ・リサイタル」をリリースするほか、合唱作品(教育芸術社)や室内楽作品、声楽家のアルバムにも参加。NHK-FM「ベストオブクラシック」など、ラジオ、テレビに出演。バロックから現代作品まで幅広いレパートリーを持ち、リサイタルなど、ソロ活動の他、声楽の伴奏や室内楽においてもその才能を高く評価され、著名演奏家の信頼も厚い。他にも打楽器を含む様々な洋、邦楽器奏者との共演や、合唱の伴奏、さらにクラシック以外のアーティストとのコラボレーションなど、多彩な活動を展開している。また、唯一の自主企画である「ティータイム・コンサート」では、演奏曲目の解説など、わかりやすく軽妙なトークも人気を博し、多くのファンを獲得している。エンジニアから調律師を経てピアニストに転身したという特異なキャリアから、レクチャーコンサートや講演なども多く、それぞれ好評を得ている。

中学校音楽部には平成19年度から勤務。指揮者とは高校時代の部活動において先輩後輩の関係にあたり、豊かな感性とテクニック、また、巧みな話術とによって部員にとって音楽面はもちろんのこと、精神面においてもかけがえのない存在となっている。最近目覚ましい成績で新たな歴史を刻み始めた中学音楽部に大きく貢献しており、近年の目を見張る当部の成長は、まさに彼の指導力のなせるところも大きい。